

調査計画

1 調査の名称（☒特定一般統計調査 ☐その他の一般統計調査）

歯科疾患実態調査

2 調査の目的

本調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」や「健康日本21（第三次）」等の各基本計画におけるベースラインの提示など、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

3 調査対象の範囲

（1）地域的範囲（☒全国 ☐その他）

（2）属性的範囲（☒個人 ☐世帯 ☐事業所 ☐企業・法人・団体 ☐地方公共団体 ☐その他）

満1歳以上の世帯員

4 報告を求める個人又は法人その他の団体

（1）報告者数

約54,000人（母集団の大きさ：約1億2400万人（満1歳以上総人口））

（2）報告者の選定方法（☐全数 ☒無作為抽出（☐全数階層あり） ☐有意抽出）

国民健康・栄養調査において設定される地区と同じ475地区内の満1歳以上の世帯員を報告者とする。

5 報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

（1）報告を求める事項

1) 性別

2) 生年月日

3) 歯や口の状態

4) 歯をみがく頻度

5) 歯や口の清掃状況

6) 過去1年間における歯科検診（健診）の受診状況

7) フッ化物応用の経験の有無

8) 矯正歯科治療の経験の有無

9) 歯・補綴の状況

10) 歯肉の状況

〔集計しない事項の有無〕 無 ☒ 有 ☐

(2) 基準となる期日又は期間

令和6年10月又は11月中の任意^(注)の1日

(注) 前記5(1)の1)～6)については報告者の任意とし、5(1)の7)～10)については調査会場を設置する保健所の指定する日とする。

6 報告を求めるために用いる方法

(1) 調査系統

厚生労働省一都道府県、保健所設置市、特別区一保健所一調査員一報告者

(2) 調査方法

☒ 郵送調査 ☐ オンライン調査 (☐ 政府統計共同利用システム ☐ 独自のシステム ☐ 電子メール)

☒ 調査員調査 ☐ その他 ()

〔調査方法の概要〕

- ① 調査対象となる単位区の世帯員(報告者)に対して、調査員が事前に訪問し、国民健康・栄養調査の実施連絡に合わせて、本調査の実施に係る案内状を配布して、あらかじめ定めた調査日に、会場に参集することを求める^(注)。

(注) 訪問した時点で、定めた調査日での参集が困難と申し出のあった世帯員には、調査票を配布し7(2)までに、前記5(1)の1)～6)を記入の上、郵送等により提出することを求める。

- ② 会場に参集した報告者に調査票を配布し、前記5(1)の1)～6)の記入を求める。
- ③ その後、調査員において、報告者が前記②により記載した内容を確認するとともに、歯科医師である調査員が、報告者の口腔内診査及び問診を行い、前記5(1)の7)～10)を記入する。
- ④ 口腔内診査及び問診が行えなかった報告者に対しては、7(2)までに、前記5(1)の1)～6)を記入の上、郵送により提出することを求める。

7 報告を求める期間

(1) 調査の周期

☐ 1回限り ☐ 毎月 ☐ 四半期 ☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☐ 5年 ☐ 不定期 ☒ その他(4年)

(1年を超える場合又は不定期の場合の直近の実施年：令和4年)

(注) 本調査については、昭和32年から6年周期で実施してきたところ、平成28年調査の承認時に5年周期に変更した。その後、令和3年に実施することが予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を受けて実施を1年延期し、令和4年に実施した。更にその後、検討を経て、令和6年を起点として4年周期へ変更することとした。

(2) 調査の実施期間又は調査票の提出期限

令和6年9月上旬～12月上旬

8 集計事項

- ・被調査者数に関する事項
 - ・歯や口の状態に関する事項
 - ・歯をみがく頻度に関する事項
 - ・歯や口の清掃状況に関する事項
 - ・歯科検診（健診）の受診状況に関する事項
 - ・フッ化物応用の経験に関する事項
 - ・矯正歯科治療の経験に関する事項
 - ・乳歯う蝕の状況に関する事項
 - ・乳歯う蝕および永久歯う蝕の状況に関する事項
 - ・永久歯う蝕の状況および保有（喪失）状況に関する事項
 - ・補綴の状況に関する事項
 - ・歯肉出血の状況に関する事項
 - ・歯周ポケットの状況に関する事項
 - ・各歯のコード別分布に関する事項
- (集計事項一覧については、別紙参照)

9 調査結果の公表の方法及び期日

(1) 公表・非公表の別（☒全部公表 ☐一部非公表 ☐全部非公表）

(2) 公表の方法（☒e-Stat ☐インターネット（e-Stat以外） ☐印刷物 ☐閲覧）

e-Statに詳細を掲載し、厚生労働省ホームページには概要及びe-Statへのリンク先を掲載する。

(3) 公表の期日

- ・概要：令和7年6月末まで
- ・詳細：令和7年11月末まで

10 使用する統計基準等

☐使用する→☐日本標準産業分類 ☐日本標準職業分類 ☐その他（ ）

■使用しない

本調査は歯科疾患を対象とした調査であり、調査対象の範囲の画定及び集計結果の表示に、統計基準を用いる余地が小さいことから、いずれの統計基準も使用しない。

11 調査票情報の保存期間及び保存責任者

(1) 調査票情報の保存期間

- ・記入済み調査票：集計結果確定後、1年
- ・調査票の内容を記録した電磁的記録媒体：常用

(2) 保存責任者

厚生労働省医政局歯科保健課長

令和6年歯科疾患実態調査 結果表一覧

(146 項目)

被調査者数 (5項目)

1	被調査者数（口腔診査、質問紙）、性・年齢別	1-1
2	被調査者数（口腔診査、質問紙）、性・都道府県別	1-2
3	被調査者数（口腔診査、質問紙）、性・地域別	1-3
4	被調査者数（口腔診査）、性・地域・乳歯永久歯別	1-4
5	被調査者数の推移、年齢階級別・乳歯永久歯別	1-5

歯や口の状態 (2項目)

1	歯や口の状態（人数・割合）、性・年齢階級別	2-1
2	歯や口の状態（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	2-2

歯をみがく頻度 (4項目)

1	歯をみがく頻度（人数・割合）、性・年齢階級別	3-1
2	歯をみがく頻度（人数・割合）、地域別	3-2
3	歯をみがく頻度の推移（人数・割合）、年齢階級別	3-3
4	歯をみがく頻度（毎日2回以上歯をみがく者の人数・割合）、性・年齢階級・地域別	3-4

歯や口の清掃状況 (2項目)

1	歯や口の清掃状況（人数・割合）、性・年齢階級別	4-1
2	歯や口の清掃状況（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	4-2

歯科検診（健診）の受診状況 (4項目)

1	歯科検診の受診の有無（人数・割合）、性・年齢階級別	5-1
2	歯科検診の受診の有無（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	5-2
3	過去1年間に歯科検診を受診した者（人数・割合）、都道府県別	5-3
4	過去1年間に歯科検診を受診した者（人数・割合）、受診機会別	5-4

フッ化物応用の経験 (3項目)

1	フッ化物応用の経験の有無（人数・割合）、性・年齢別	6-1
2	フッ化物応用の経験の有無（人数・割合）、地域別	6-2
3	フッ化物塗布経験者の割合、年齢別（1～14歳）	6-3

矯正歯科治療の経験（3歳以上） (2項目)

1	矯正歯科治療の経験の有無（人数・割合）、性・年齢階級別	7-1
2	矯正歯科治療の経験の有無（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	7-2

乳歯う蝕の状況（1～14歳）(17項目)

1	う蝕(df)歯の有無とその処置状況（人数・割合）、性・年齢別	8-1
2	う蝕(df)歯の有無とその処置状況（人数・割合）、性・年齢・地域別	8-2
3	う蝕(df)有病者率・未処置歯(d)保有者率の推移、年齢別	8-3
4	現在歯数の頻度分布、性・年齢別	8-4
5	健全歯数の頻度分布、性・年齢別	8-5
6	未処置(d)歯数の頻度分布、性・年齢別	8-6
7	処置(f)歯数の頻度分布、性・年齢別	8-7
8	う蝕(df)歯数の頻度分布、性・年齢別	8-8
9	1人平均現在歯数・健全歯数・う蝕(df)歯数・未処置(d)歯数・処置(f)歯数、性・年齢別	8-9
10	1人平均う蝕(df)歯数・未処置(d)歯数・処置(f)歯数およびパーセントイル値、年齢階級別	8-10
11	1人平均健全歯数・処置(f)歯数・未処置(d)歯数、年齢階級別	8-11
12	1人平均健全歯数・処置(f)歯数・未処置(d)歯数、性・年齢別	8-12
13	1人平均現在歯数とその内訳、性・年齢別	8-13
14	1人平均う蝕(df)歯数、性・年齢・地域別	8-14
15	1人平均う蝕(df)歯数の推移、年齢別	8-15
16	各歯におけるう蝕(df)歯のある者の割合、年齢別	8-16
17	う蝕罹患型－0・A・B・C1・C2型別分類（人数・割合）、性・年齢別	8-17

乳歯う蝕および永久歯う蝕の状況（5～14歳）（2項目）

1	う蝕（df、DMF）歯の有無とその処置状況（人数・割合）、性・年齢別	9-1
2	1人平均う蝕（df、DMF）歯数、年齢別	9-2

永久歯う蝕の状況および保有（喪失）状況（5歳以上）（34項目）

1	う蝕（DMF）歯の有無、および歯冠・歯根別にみた未処置う蝕の保有状況（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	10-1
2	う蝕（DF）歯の有無、および歯冠・歯根別にみた未処置う蝕の保有状況とその処置状況（人数・割合）、性・年齢階級別	10-2
3	う蝕（DF）歯の有無、および歯冠・歯根別にみた未処置う蝕の保有状況とその処置状況（人数・割合）、性・年齢階級・地域別	10-3
4	未処置・処置（DF）歯保有者率および未処置（D）歯保有者率の推移、年齢階級別	10-4
5	1人平均現在歯数および喪失歯数とその内訳、性・年齢階級別	10-5
6	1人平均う蝕（DMF）歯数・D歯数（歯冠・歯根別）およびパーセンタイル値、年齢階級別	10-6
7	1人平均健全歯数・処置（F）歯数・未処置（D）歯数（歯冠・歯根別）、性・年齢階級別	10-7
8	1人平均う蝕（DMF）歯数の推移、年齢階級別	10-8
9	1人平均う蝕（DMF）歯数、性・年齢階級・地域別	10-9
10	各歯におけるう蝕（DMF）歯のある者の割合、年齢階級別	10-10
11	1人平均現在歯数、無歯顎者・現在歯20本以上の者・現在歯24本以上の者・喪失歯を持つ者（人数・割合）、性・年齢階級別	10-11
12	1人平均現在歯数・喪失歯数、年齢階級別（15歳以上）	10-12
13	現在歯数（5区分）の頻度分布（人数・割合）、年齢階級別	10-13
14	1人平均現在歯数およびパーセンタイル値、年齢階級別	10-14
15	1人平均現在歯数の推移、年齢階級別（15歳以上）	10-15
16	無歯顎者数・無歯顎者率の推移、年齢階級別（15歳以上）	10-16
17	現在歯20本以上の者の割合の推移、年齢階級別（45歳以上）	10-17
18	1人平均現在歯数、性・年齢階級・地域別（15歳以上）	10-18
19	無歯顎者・現在歯20本以上の者、現在歯24本以上の者・喪失歯のある者（人数・割合）、性・年齢階級・地域別（15歳以上）	10-19
20	1人平均喪失歯数、年齢階級・地域別（15歳以上）	10-20
21	各歯における現在歯のある者の割合、性・年齢階級別	10-21
22	現在歯数の頻度分布、性・年齢別	10-22
23	40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合、都道府県別	10-23
24	各歯の現在歯数と1人平均値、年齢別	10-24
25	各歯の喪失歯数と1人平均値、年齢別	10-25
26	健全歯数の頻度分布、性・年齢別	10-26
27	各歯の健全歯数と1人平均値、年齢別	10-27
28	未処置（D）歯数の頻度分布、性・年齢別	10-28
29	20歳以上における未処置歯を有する者の割合、都道府県別	10-29
30	各歯の未処置（D）歯数と1人平均値、年齢別	10-30
31	処置（F）歯数の頻度分布、性・年齢別	10-31
32	各歯の処置（F）歯数と1人平均値、年齢別	10-32
33	う蝕（DMF）歯数の頻度分布、性・年齢別	10-33
34	未処置または処置（DF）歯数の頻度分布、性・年齢別	10-34

補綴の状況（15歳以上・永久歯）（8項目）

1	補綴物を装着している者（人数・割合）、性・年齢階級別	11-1
2	補綴完了・一部完了・未処置等の者（人数・割合）、性・年齢階級別	11-2
3	補綴完了者の割合の推移、年齢階級別	11-3
4	1人平均補綴歯数・要補綴歯数、性・年齢階級別	11-4
5	補綴状況別にみた1人平均喪失歯数、年齢階級別	11-5
6	補綴完了・一部完了・未処置等の者（人数）、性・地域別	11-6
7	補綴完了・一部完了・未処置等の者（人数・割合）の推移、年齢階級別	11-7
8	補綴物を装着している者（人数・割合）、年齢階級・地域別	11-8

歯肉出血の状況（10歳以上・永久歯）（5項目）

1	歯肉出血を有する者（人数・割合）、性・年齢階級別	12-1
2	歯肉出血を有する者（人数・割合）、年齢階級・地域別	12-2
3	歯肉出血のコード別にみた1人平均分画数、性・年齢階級別	12-3
4	歯肉出血の「有」の1人平均分画数、年齢階級・地域別	12-4
5	歯肉出血を有する者（人数・割合）の推移、年齢階級別	12-5

歯周ポケットの状況（15歳以上・永久歯）（6項目）

1	歯周ポケット（4mm以上）を有する者（人数・割合）、年齢階級・地域別	12-6
2	40歳以上における歯周ポケット（4mm以上）を有する者の割合、都道府県別	12-7
3	歯周ポケット（4mm以上、6mm以上）を有する者（人数・割合）、性・年齢階級別	12-8
4	歯周ポケットのコード別にみた1人平均分画数、性・年齢階級別	12-9
5	歯周ポケット（4mm以上）の1人平均分画数、年齢階級・地域別	12-10
6	歯周ポケット（4mm以上）を有する者（人数・割合）の推移、年齢階級別	12-11

各歯のコード別分布（乳歯は1～14歳、永久歯は5歳以上）（52項目）

1	上顎右側乳中切歯（歯番号=51、性・年齢別）	13-1
2	上顎右側乳側切歯（歯番号=52、性・年齢別）	13-2
3	上顎右側乳犬歯（歯番号=53、性・年齢別）	13-3
4	上顎右側第一乳臼歯（歯番号=54、性・年齢別）	13-4
5	上顎右側第二乳臼歯（歯番号=55、性・年齢別）	13-5
6	上顎左側乳中切歯（歯番号=61、性・年齢別）	13-6
7	上顎左側乳側切歯（歯番号=62、性・年齢別）	13-7
8	上顎左側乳犬歯（歯番号=63、性・年齢別）	13-8
9	上顎左側第一乳臼歯（歯番号=64、性・年齢別）	13-9
10	上顎左側第二乳臼歯（歯番号=65、性・年齢別）	13-10
11	下顎左側乳中切歯（歯番号=71、性・年齢別）	13-11
12	下顎左側乳側切歯（歯番号=72、性・年齢別）	13-12
13	下顎左側乳犬歯（歯番号=73、性・年齢別）	13-13
14	下顎左側第一乳臼歯（歯番号=74、性・年齢別）	13-14
15	下顎左側第二乳臼歯（歯番号=75、性・年齢別）	13-15
16	下顎右側乳中切歯（歯番号=81、性・年齢別）	13-16
17	下顎右側乳側切歯（歯番号=82、性・年齢別）	13-17
18	下顎右側乳犬歯（歯番号=83、性・年齢別）	13-18
19	下顎右側第一乳臼歯（歯番号=84、性・年齢別）	13-19
20	下顎右側第二乳臼歯（歯番号=85、性・年齢別）	13-20
21	上顎右側中切歯（歯番号=11、性・年齢階級別）	13-21
22	上顎右側側切歯（歯番号=12、性・年齢階級別）	13-22
23	上顎右側犬歯（歯番号=13、性・年齢階級別）	13-23
24	上顎右側第一小臼歯（歯番号=14、性・年齢階級別）	13-24
25	上顎右側第二小臼歯（歯番号=15、性・年齢階級別）	13-25
26	上顎右側第一大臼歯（歯番号=16、性・年齢階級別）	13-26
27	上顎右側第二大臼歯（歯番号=17、性・年齢階級別）	13-27
28	上顎右側第三大臼歯（歯番号=18、性・年齢階級別）	13-28
29	上顎左側中切歯（歯番号=21、性・年齢階級別）	13-29
30	上顎左側側切歯（歯番号=22、性・年齢階級別）	13-30
31	上顎左側犬歯（歯番号=23、性・年齢階級別）	13-31
32	上顎左側第一小臼歯（歯番号=24、性・年齢階級別）	13-32
33	上顎左側第二小臼歯（歯番号=25、性・年齢階級別）	13-33
34	上顎左側第一大臼歯（歯番号=26、性・年齢階級別）	13-34
35	上顎左側第二大臼歯（歯番号=27、性・年齢階級別）	13-35
36	上顎左側第三大臼歯（歯番号=28、性・年齢階級別）	13-36
37	下顎左側中切歯（歯番号=31、性・年齢階級別）	13-37
38	下顎左側側切歯（歯番号=32、性・年齢階級別）	13-38
39	下顎左側犬歯（歯番号=33、性・年齢階級別）	13-39

40	下顎左側第一小臼齒（齒番号=34、性・年齢階級別）	13-40
41	下顎左側第二小臼齒（齒番号=35、性・年齢階級別）	13-41
42	下顎左側第一大臼齒（齒番号=36、性・年齢階級別）	13-42
43	下顎左側第二大臼齒（齒番号=37、性・年齢階級別）	13-43
44	下顎左側第三大臼齒（齒番号=38、性・年齢階級別）	13-44
45	下顎右側中切齒（齒番号=41、性・年齢階級別）	13-45
46	下顎右側側切齒（齒番号=42、性・年齢階級別）	13-46
47	下顎右側犬齒（齒番号=43、性・年齢階級別）	13-47
48	下顎右側第一小臼齒（齒番号=44、性・年齢階級別）	13-48
49	下顎右側第二小臼齒（齒番号=45、性・年齢階級別）	13-49
50	下顎右側第一大臼齒（齒番号=46、性・年齢階級別）	13-50
51	下顎右側第二大臼齒（齒番号=47、性・年齢階級別）	13-51
52	下顎右側第三大臼齒（齒番号=48、性・年齢階級別）	13-52

令和6年歯科疾患実態調査の標本設計について

【概要】

本調査は、わが国の歯科保健状況を把握し、8020 運動(歯科保健推進事業等)の種々の対策の効果についての検討や、「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第二次)」及び「健康日本 21(第三次)」において設定した目標項目のベースライン値の提示や、達成度の判定、及び次期計画の目標設定に活用する等、今後の歯科保健医療対策を推進するために必要な基礎資料を得ることを目的としている。

また、前回の国民健康・栄養調査の拡大調査と同時実施の調査(平成 28 年)では、国民健康・栄養調査の調査区(475 調査区)と重複する調査区から(150 調査区)を無作為に抽出して調査を行ったが、今回の調査は、地域間における健康格差を評価する観点から、調査区を拡大して実施予定である。

本調査の結果のうち、質問紙への回答から得られるデータである「過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合」をはじめとする主要な 4 項目¹について、いずれも各都道府県単位での標準誤差およそ 3 %を達成するために必要な調査対象数を算定した結果、各都道府県で概ね 10~13 調査区となったことから、国民健康・栄養調査(拡大調査)と同じ調査区の **475 調査区(約 54,000 名)**を調査することを予定している。なお、全国表章においては、令和 2 年 10 月時点の各都道府県人口に復元し、集計を行う。

【詳細】

(1) サンプルサイズの計算式(都道府県別)

$$n = \frac{p(1-p)}{\alpha^2}$$

n : 必要なサンプルサイズ(ある年代の調査参加者数)

p : 母比率(令和 4 年歯科疾患実態調査の結果(全国値))

α : 目標精度(標準誤差) 都道府県別:3.0%

(2) 前提となる参加率等

- ・令和 4 年歯科疾患実態調査における口腔内診査の参加率は約 15.4%であったが、被調査者が参加しやすい時間帯・会場での調査の実施、自計項目による口腔への気づきの促進や、国民健康・栄養調査(身体状況調査)との連携による調査会場での口腔内診

¹ 次の 4 項目: 過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合、20 歳以上における未処置歯を有する者の割合、40 歳以上における歯周炎を有する者の割合、40 歳以上における自分の歯が 19 歯以下の者の割合

査への効果的な誘導等の参加率向上に資する取組を行い、30%を目標とする。なお、口腔内診査以外の調査事項も含む全体の参加率については、前回（令和4年）調査の実績は18.1%であったが、当時における新型コロナウイルス感染症の影響等も鑑み、令和元年度の国民健康・栄養調査における身体状況調査と同程度の参加率（約40%程度）を目標とする。

- ・ 上記(1)で算出した当該年代のサンプルサイズを求め、令和2年10月時点人口の全人口に占める当該年代の割合から、全年齢のサンプルサイズを算出する。

(3) 計算結果

北海道における、40 歳以上における歯周炎を有する者の割合を例とした具体的な計算結果は以下の通り。

各パラメータの値	説明（出展など）
$p = 55.0\%$	40 歳以上における歯周炎を有する者の割合 （令和 4 年歯科疾患実態調査結果（全国値））
$\alpha = 3.0\%$	目標とする標準誤差
$n = \frac{p(1-p)}{\alpha^2} = 275.0$	40 歳以上の必要な口腔健診参加人数
$r = 30.0\%$	40 歳以上の口腔内診査の目標参加率
$n' = n \div r = 916.6$	北海道における 40 歳以上の必要調査対象数
$c = 66.2\%$	北海道における 40 歳以上人口の全人口に占める割合 （令和 2 年 10 月 1 日時点人口に基づく）
$n'' = n' \div c = 1384.6$	北海道における調査対象地区に住む必要な調査地区人口

全都道府県について、他の 4 調査項目についても同様に計算した結果 40 歳以上における歯周炎を有する者の割合で計算した必要調査人数が最も多くなった。1 調査区あたりの人口を 115 人として必要な調査区数を求めると、各都道府県で 10～13 調査区が必要となった。

一方、国民健康・栄養調査（拡大調査年）の調査区数は各道府県で 10 調査区、東京都において 15 調査区であることから、本調査についても国民健康・栄養調査と同じ 475 調査区を調査することとする。

なお、10 調査区を調査し、参加率 30%を達成すると、40 歳以上における歯周炎を有する者の割合の標準誤差は、すべての都道府県で概ね 3.0%～3.4%程度となると期待されるが、この誤差は許容できる範囲と考えられる。また、参加率を向上させること等により目標精度である 3.0%の達成を目指す。

他の主要項目については、すべての県で標準誤差 3.0%未満を達成できる見込みである。